



第12回三村交流会in荻町開催！！

12月9日、荻町多目的集会施設に於いて、みだしの会が開催されました。三村交流会は、平成7年に岐阜県白川郷荻町集落・富山県五箇山相倉集落・同菅沼集落の3集落が世界遺産に登録されたのを契機に、3集落の住民の交流、親睦、課題の共有を図ることを目的にスタートした会です。3集落の保存会が持ち回りで準備し、今回は守る会が当番を務めました。

今回のテーマは『世界遺産を次代につなぐ～住民主体の保存活動～』。荻町開催ということもあり、伝建制度や近年の守る会の取り組みについて、村教育委員会松本氏、守る会役員7名全員で話題提供し、相倉・菅沼の顕彰会よりも、活動報告をしていただきました。総勢80名が参加くださり、意見交流の後は酒を酌み交わしての懇親会。荻町民謡保存会による芸能披露も行われ、三集落の住民が大いに語り親睦を深める機会となりました。また、これからの守る会を担う中堅役員が中心となり活動発表を行ったことも、大きな意義ある取り組みであったと考えています。準備から当日の運営に至るまでご尽力くださいました、多くの委員の方々及び参加者の皆様に感謝しつつ、以下に発表の概要を報告いたします。



【約80名が参加し三村交流会スタート】

◎教育委員会松本氏より

- ・伝建制度と守る会、住民憲章について説明。
- ・保存の三原則を掲げた住民憲章で保存活動が始動。住民の紳士協定で守るなか、伝建の法制度がそれを後押し。
- ・月一の定例会で現状変更申請を審議。年間100件の事案を扱う。組の委員が2年の輪番で交代する制度や住民による審議を意見書として添えるシステムは、他地区ではみられない先駆的な取り組み。40年以上前から住民みんなで景観を守る取り組みが、永遠と継続されているところに、荻町のパイオニアとしての偉大さがある。

◎守る会近年の取り組み

○守る会の歴史と住民憲章（会長：和田）

- ・現在にいたるまでの流れと住民憲章について説明。

○白川郷学園ふるさと学習への参画（副会長：今藤）

- ・義務教育学校となり、ふるさと学習（村民学）6年生のカリキュラムに「守る会と結」が位置付け。年間を通して授業に参画。昨年は守る会から発展し、消防団活動についても話を。ふるさとから学ぶ子どもたちに感謝。

○伝建40周年「荻町未来会議」を開催（事務局長：尾崎）

- ・「つなぐ」をテーマにワークショップを開催。合掌、農業、祭、郷土芸能を素材に住民が8つのグループに分かれて話し合いを。その司会や記録は子どもたちが務め、事前学習会も10回実施。子どもたちの姿に大人も刺激を受け、未来を見据えた意義ある話し合いができた。

○研修会への参加と茅刈りイベント（企画部長：鈴木）

- ・全伝協総会や全国町並みゼミに積極的に参加。世界遺産となった荻町に質問が飛び交う。また、他地区の活動から学ぶことも一杯ある。ぜひご参加を。
- ・茅刈りイベントを継続実施。結の屋根葺きと同じくらい住民に必要とされるイベントに育みたい。

○外来植物駆除とセンガ岩倉庫活用（一般環境部長：川田）

- ・オオハンゴンソウの除去活動を平成25年より継続。現在は観光協会青年部に委託し継続。
- ・集落内には倉庫等の新築物件が建てられないため、増加する農業機械や除雪重機が野ざらしに。



【守る会役員による活動発表】



【荻町民謡保存会による民謡披露】

そこで景観保全の観点から、村所有の倉庫を守る会が管理し荻町住民に活用。使用料はプールし景観保全の資金に還元。倉庫の老朽化にともない、新倉庫の建設を村にお願いしている。

○旧寺口家の管理と結の継承（合掌環境部長：野谷）

- ・旧寺口家の清掃や雪囲い等の管理を守る会で。現在は住居として活用しつつ、その管理の支援を。
- ・屋根葺き技術を伝承するためにも、結による屋根葺きは必要。年に1棟は結での屋根葺きができるよう、住民、合掌保存組合、教育委員会と連携し、結の継承に努めたい。

○景観に関する懇談会と会報紙ねその発行（総務部長：福田）

- ・年に1回懇談会を開催。話し合いを通し、各団体の自浄力で景観保全の向上に努めている。
- ・月1回発行の会報紙。何人もの方々の力をつないできた。また、守る会の活動の足跡を記録する大きな役割も果たしている。今年はリレーコラムをスタートし、もっと読まれるもっと親しみのある媒体にレベルアップを。住民の多くの皆様に執筆を依頼するので、ご参加ご協力を。

◎相倉顕彰会の取り組み（中谷顕彰会長、同会計中島氏）

- ・史跡保存にむけ住民と行政を結ぶ役割を。茅の収穫・保存・売買・活用の橋渡しを。
- ・小茅の収穫に集落をあげて。4.7haの茅場から6,300束の茅を収穫。近年の茅自給率は100%。

◎菅沼顕彰会の取り組み（中島顕彰会長）

- ・CSR活動の支援を得て、茅場の造成。行政の支援を得て、消火器設置や史跡保存活用計画の実施。
- ・テレビ取材等でのドローンの撮影許可の窓口。（※次回は相倉集落の当番となります。）[以上文責：和田]

リレーコラム②趣味に仕事に全力投球！その思いが白川村をつなぐ（8番手）

「大好きな白川村を守りたい“気持ち”を大切に！」

根尾 美智子さん



世界遺産を守る、伝統を受け継ぐという事を口にするのは簡単ですが、実際にはそう簡単なことではないと思います。でも今、世界遺産や郷土芸能等の伝統が守られ、継承されているという事は、とても素晴らしく、白川村民として誇りに思います。白川村の人全員が守っていなければ、継承できない。合掌造りに関する仕事をしている人だけではなく、職業に関係なく、観光業、建設業、郷土芸能に関わっている人等、村全体の人が守ることに携わっていると思う。私自身が守る事に携わっているとは、自信を持って言える立場ではありませんが、守っていききたいという気持ちはあります。少しだけ携わっているのかなと思う事。それは、中学生の頃からやっている民謡。そして2年前から作っている『合掌結ビーズ』です。ビーズでアクセサリーを作る事は、何年か前からやっていますが、白川村に関するものを作りたいと思い、試行錯誤して考えて作ったのがビーズの合掌造りです。製作時間はかかりますが、白川村のお土産のひとつになったらいいなと思い、ひとつひとつ大切に作っています。色々な年齢の方に、合掌造りを身近に感じて頂けたら嬉しいです。ある方は、合掌結ビーズが、縁結びになるのではないかと聞いた方もいます。

今回は、昔も今も、そしてこれからも白川村が大好きだという根尾さんに、その思いを伺いました。なんとなく表舞台に登場する人は固定化されているようにも感じますが、決してそのようなことはなく、村民全員がこの村に必要で、どんな人でも村に暮らし一生懸命生きることが村の未来を創るということに改めて気づかされます。今回「縁結び」という言葉が出てきますが、男女のご縁だけではなく、白川村は本当に人と人とのご縁を感じられる、ご縁に感謝できる場面がたくさんあると思っています。リレーコラムも、たった1枚の紙の上での出来事に過ぎませんが、何年何十年かけて、人と人がつながって、村民全員の思いを綴ることができるといいなと夢見ています。 [文責：福田]

＝ 12月の活動報告 ＝

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 12月 4日 役員会、新聞社取材（会長） | 12月 11日 ねそ12月号配付 |
| 12月 7日 役員会（三村交流会に向けて） | 12月 13日 韓国ナショナルトラスト来郷（会長） |
| 12月 8日 白川郷学園地域公開日（6年ふるさと学習参画） | 12月 16日 荻町区大寄合（午後） |
| 12月 9日 第12回三村交流会（荻町公民館） | 12月 31日 白川八幡神社除夜祭・元旦祭 |
| 12月 10日 12月定例会・役員会 | ※2月の定例会は、2月8日（金）を予定しています。 |

守る会活動スローガン ～守る・くらす・つなぐ～

- ①守る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
- ②くらす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
- ③つなぐ：故郷から学び、国内外の交流から学び、未来への継承者を育成

※1月の現状変更申請の結果は、定例会前ですので、2月号にて報告をさせていただきます。